

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	田中 孝昌
論文担当者	主査 坂口 太一
	副査 小山 英則
	副査 若林 一郎
学位論文名	Comparison of coronary atherosclerotic disease burden between ST-elevation myocardial infarction and non-ST-elevation myocardial infarction: Non-culprit Gensini score and non-culprit SYNTAX score (非 ST 上昇型心筋梗塞と ST 上昇型心筋梗塞における非責任病変の重症度に関する比較検討)
<p>【目的】急性心筋梗塞 (Acute Myocardial Infarction: AMI) は ST 上昇型急性心筋梗塞 (ST-Elevation AMI: STEMI) と非 ST 上昇型急性心筋梗塞 (Non ST-Elevation AMI: NSTEMI) とに分類される。STEMI と比べて NSTEMI の長期予後は不良であるが、その原因は明らかではない。冠動脈における動脈硬化の拡がりや AMI の予後に関連する重要な因子とされることから、本研究において STEMI と NSTEMI の動脈硬化の拡がりを 2 つのスコアを用いて比較検討した。【方法】2015 年 4 月から 2018 年 11 月に兵庫医科大学病院で経皮的冠動脈カテーテルインターベンション (Percutaneous Coronary Intervention: PCI) を施行した連続 231 症例 (STEMI 134 例、NSTEMI 97 例) が対象。冠動脈硬化の評価方法として、25%以上の病変の狭窄度、病変の場所にそれぞれ点数をつけて掛け合わせることで動脈硬化の拡がりを点数化した Gensini score と、冠動脈の動脈硬化病変の複雑性を点数化した SYNTAX score を使用した。非責任病変の動脈硬化の程度を比較検討するために、責任病変のスコアを除外した新しい “non-culprit score” を使用した。【結果】STEMI 134 例、NSTEMI 97 例で、平均年齢は NSTEMI で高く、脂質異常症や PCI の既往も NSTEMI で多かった。最大 CK (Creatine Phosphokinase) 値や Killip 分類は STEMI において有意に高かった。NSTEMI の non-culprit Gensini / SYNTAX score ($31.2 \pm 25.4 / 11.1 \pm 9.7$) は STEMI ($16.3 \pm 19.8 / 5.8 \pm 7.0$) よりいずれも有意に高かった。年齢 (75 歳以上/未満) や脂質異常症、糖尿病、PCI の既往の有無で層別化した STEMI と NSTEMI 間での non-culprit Gensini/SYNTAX score は NSTEMI がいずれも有意に高かった。【結語】本研究により、NSTEMI は STEMI よりも動脈硬化が拡がっていることが推測され、NSTEMI の長期予後不良因子となる可能性が示唆された。</p> <p>本研究は NSTEMI と STEMI の長期予後の違いを冠動脈硬化の拡がりから検討したもので、この領域において新たな知見を与えるものであり、学位に値するものと評価した。</p>	